

## 別室指導教室での対応について

### 不登校児童・生徒の状況

当該生徒は、中学3年生であり、2年生1学期より登校しぶりが始まった。その後不登校となっている。不登校の要因は、精神的不安定からくるものであり、当該生徒は一時、外出することが困難になる時期もあった。現在は、進路についても先を見通すことができている。

### 具体的な取組

#### 「別室対応教室の設置」

不登校生徒の学校・教室復帰のきっかけとなるよう、校内に「別室対応教室」を設置した。場所についても配慮をし、生徒が登校しやすいよう、玄関近くで他の生徒と顔を合わせない場所に教室を設置した。



#### 「支援会議の活用」

週一回行われる、支援会議において、別室対応の報告を随時行った。対応内容、生徒の様子など、きめ細やかな内容を報告することによって管理職、特別支援教育コーディネーター、各学年担当、SC、SSW等の各関係機関とも共通理解を図ることができ、次の支援へとつながった。

#### 「支援チームの設置」

校内の生活指導部から、不登校対策チームを組み、組織的な対応を心がけた。不登校の生徒や登校しぶり傾向の生徒がいた際には、そこで現在の様子と別室対応が適切であるかの検討を行った。学校全体で組織的に対応を行うことによって学年間でも現状を把握することができた。

#### 「内容の充実」

別室に登校した生徒は、基本的に生徒自らによる「自習」とし、生徒が目標をもち学習に取り組めるようにした。生徒の状態によって、会話やコミュニケーションゲームをするなど、個々の状況によって柔軟に対応できるようにした。

### 成果

今年度、4月から半年間の取組ではあるが、当該生徒の登校機会の増加はもとより、不登校加配教員が生徒対応をすることによって担任との役割分担ができた。生徒も学校に来る日数が増えたことで、教室復帰を見据えることができた。

### 課題

別室での支援の充実だけでなく、登校しやすい教室環境や学校づくりを同時に行う必要がある。

## 不登校対策の実践について

### 不登校児童・生徒の状況

本校の不登校生徒の中には、外出が少ないため、体力が低下し、登校するのが億劫になっている生徒がいる。学習意欲は教科によっては高いものもあり、自宅等で自分で学習に取り組んでいる。3年生は、進路について少しずつ考えている状況である。

### 具体的な取組

教員が生徒と話をする時間を確保し、生徒と良好な関係を構築することや、生徒の状況把握を行った。進学したい思いがあるため、それに向けて生活習慣を整え、登校日を増やすことを目標にし、自らの生活習慣を振り返り、改善していく試みをした。また、生徒が参加しやすい授業や生活習慣を考慮し、徐々に登校日を増やしていく取り組みを実践中である。

学校に登校する機会が少ないため、進学意欲があっても進路についての知識や情報が不足している現状がある。そこで、進路について一緒に考え、夏季休業中の学校見学についてや、学校を選択する際に何を重視するかなど、生徒と会話をしながら進めている。



不登校加配教員が不登校対策に関する研修に参加し、各校の実践事例について理解するとともに、自校への情報提供を行っている。また、研修で得た知識を自校に生かすことができないかを検討している。

不登校加配教員を校内委員会のメンバーとし、生徒情報の共有を行った。また、共有とともに対応策や不登校の予防策を考え、実践につなげている。一部の教員で対応するのではなく、組織的に対応していくことを重要視している。

### 成果

年度当初は、あまり登校できなかったが、一学期の終わりには週一回の登校ができるようになってきた生徒がいる。また、進路選択について見通しをもつことができたことで、夏季休業中に高校の学校見学に行く予定を立てることができた生徒もいる。

### 課題

他者との関わり方に課題があるため、それに対するアセスメントを行い、SSTを含めた学習を行っていく必要もあると考える。